POP WORLD
ふしぎの国のアリス
ぽっぷ え
はやのみちよ ぶん
ポプラ社

POP WORLD

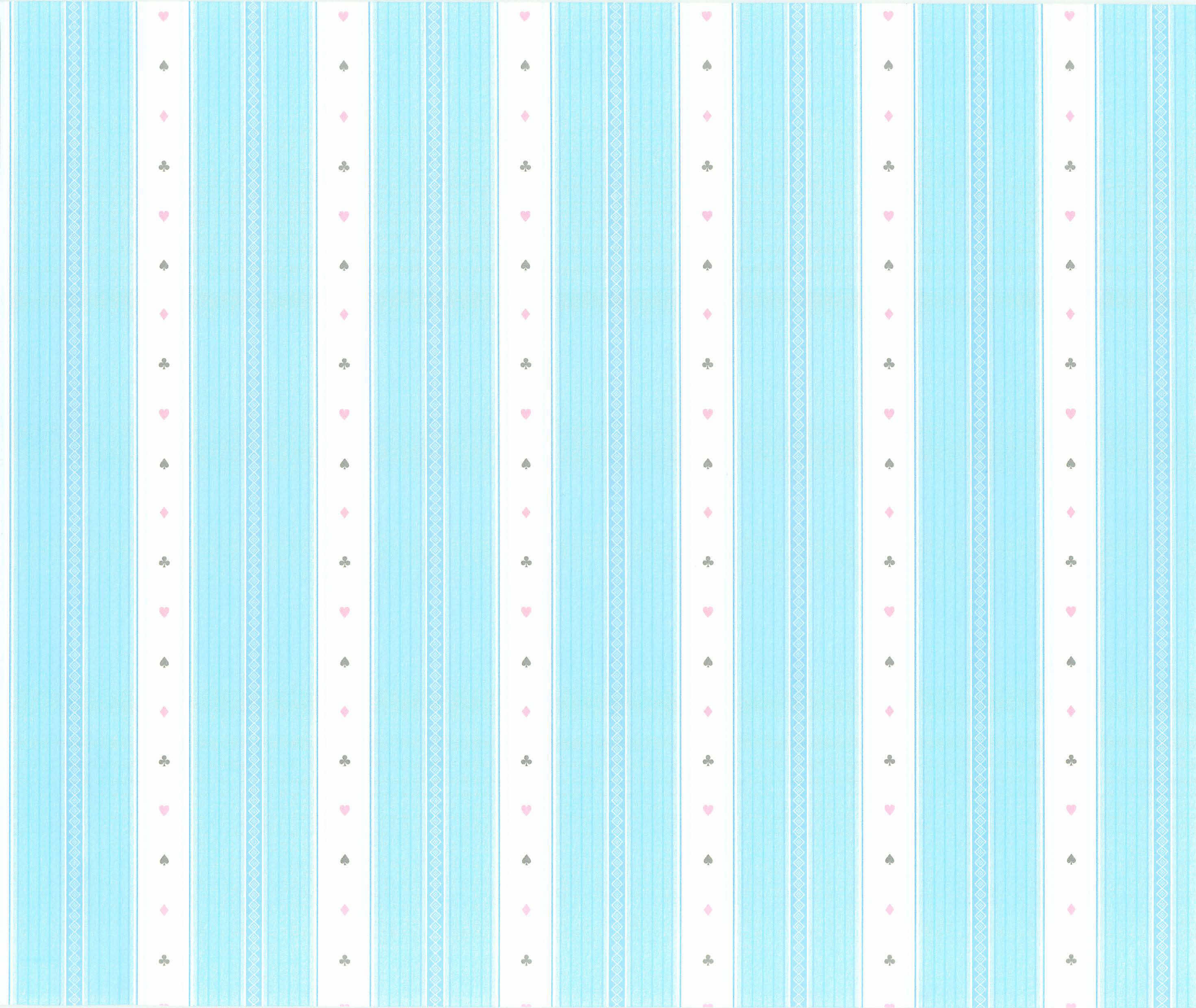
ふしぎの国のアリス

Alice's Adventures in Wonderland



ぽっぷ え　はやのみちよ ぶん

白ウサギをおいかけて、
ふしぎの国にまよいこんだアリス。
そこでアリスがであったのは、
ニヤニヤわらうチェシャねこに、
おかしなお茶会、トランプの女王さま…。



POP WORLD

ふしぎの国のアリス

Alice's Adventures in Wonderland

金色の光がそそぐ昼さがり
ゆらゆらさまよう小舟の上で
つむぎだされたものがたり
さあ、アリス！
このふしぎなお話を
その手でそっとしまっておくれ
きみのたいせつなたからばこに
こどもの日の思い出といっしょに

ぽっぷ え　　はやのみちよ ぶん



　アリスは、ひなぎくの花のさく土手にすわっていました。
でも、たいくつでたまりません。
なんだかねむくなってしまいそうです。

　そのとき、目の前をなにかがとおりすぎていきました。
それは、ピンクの目をした白ウサギでした。

　白ウサギは立ちどまって、とけいをとりだし、
ちらりとながめました。そして、大あわてであなにとびこむと、
見えなくなってしまいました。

「いったい、今のはなあに？」





アリスはあとをおいかけて、あなにとびこみました。
あなはずーんとふかくて、ぐんぐんおちていきました。

　ストンとついたところは、細長い大ひろま。
まわりにはドアがたくさんありました。
　ひろまのまんなかのガラスのテーブルの上に、
金色の小さなカギがあります。



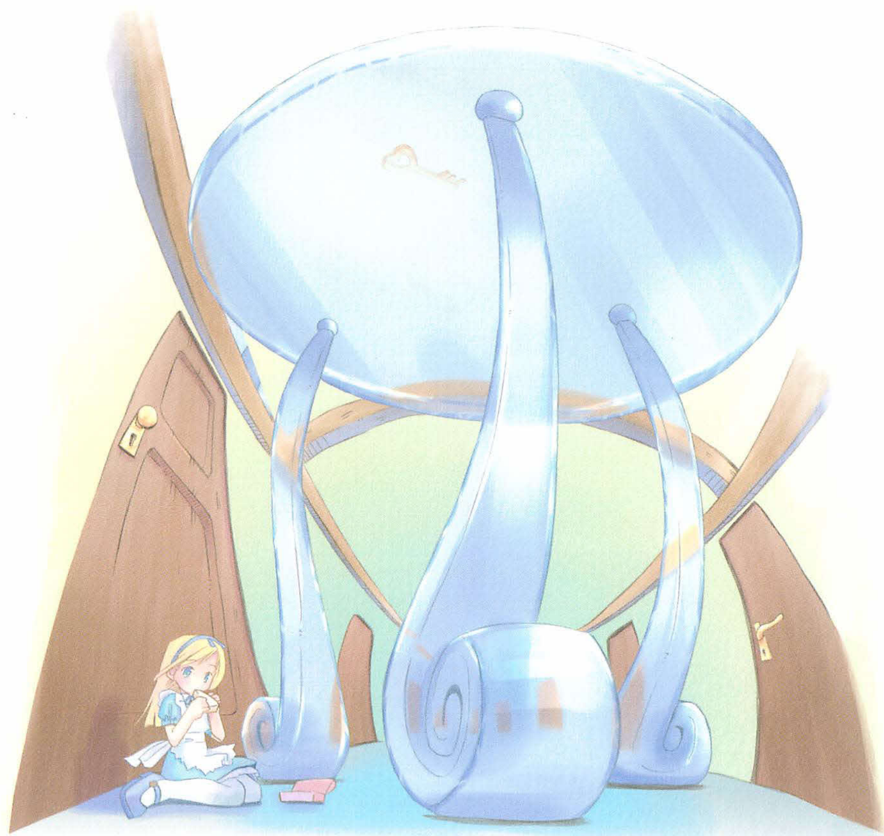
小さなカギにあうのは小さなドア。
あけてみると、ネズミのあなくらいの
とおりみちのむこうに、
きれいなにわが見えました。
「すてき！　行ってみたいわ」
でも、小さなドアは、
アリスの頭もとおりそうにありません。



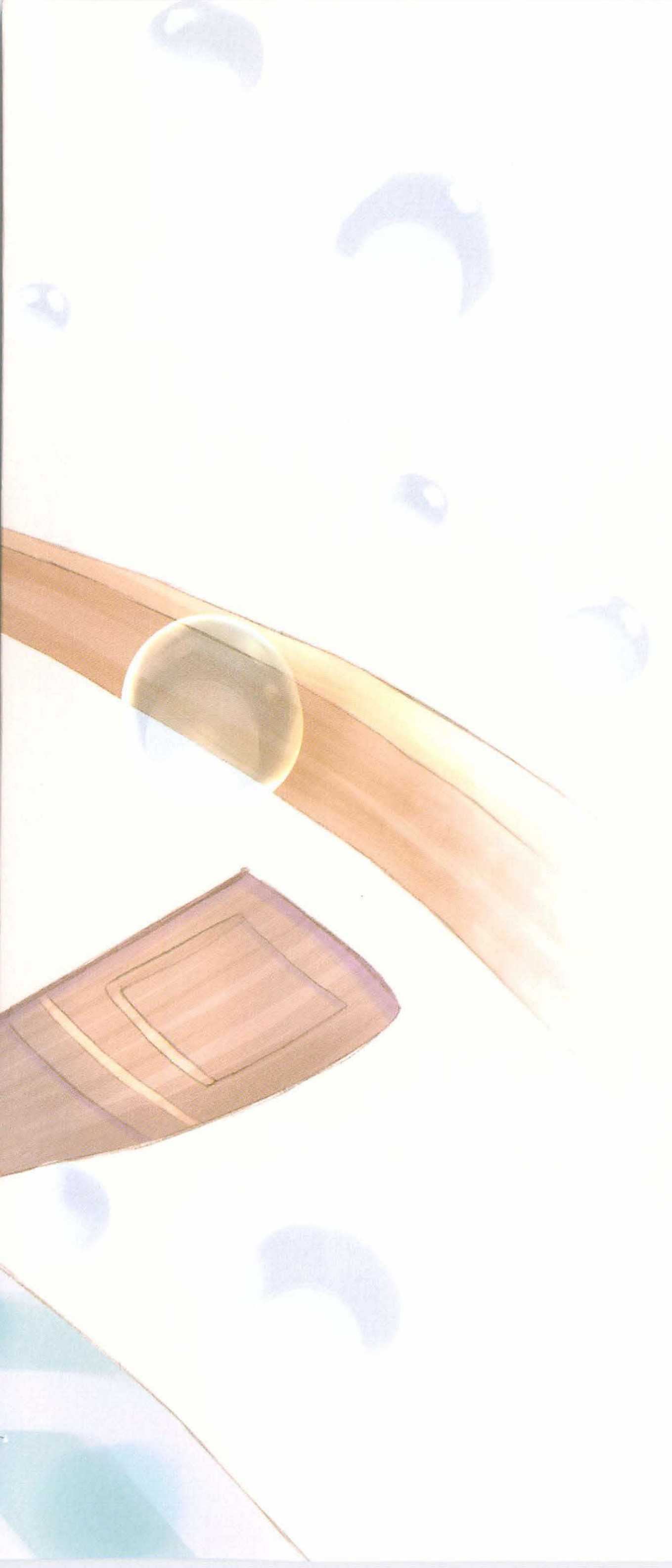


そのとき、テーブルの上に、
小さなびんが見えました。それには、
『わたしをのんで』とかいてあります。
さっそくのんでみると、アリスの体は
きゅーんと小さくなってしまったのです。

「これじゃあ、テーブルのカギにとどかないわ」
小さくなったアリスの目に、
テーブルの下のケーキのはこが見えました。
ケーキには、ほしぶどうで、
『わたしを食べて』とかいてあります。
「これもためしてみましょう」







ケーキを食べると、アリスの体はぐーんと大きくなってしまいました。これでは、テーブルのカギに手がとどいても、小さなドアがとおれません。

アリスはこまって、なきだしてしまいました。

大きなアリスのながす大つぶのなみだで、足のまわりに水たまりができています。

そこへ、あの白ウサギが走ってきました。

「たいへんたいへん、ちこくだ、ちこくだ！」

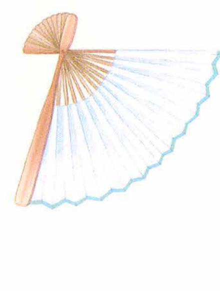
あいかわらず大あわての白ウサギは、おうぎをおとしたのも気づかず、行ってしまいました。

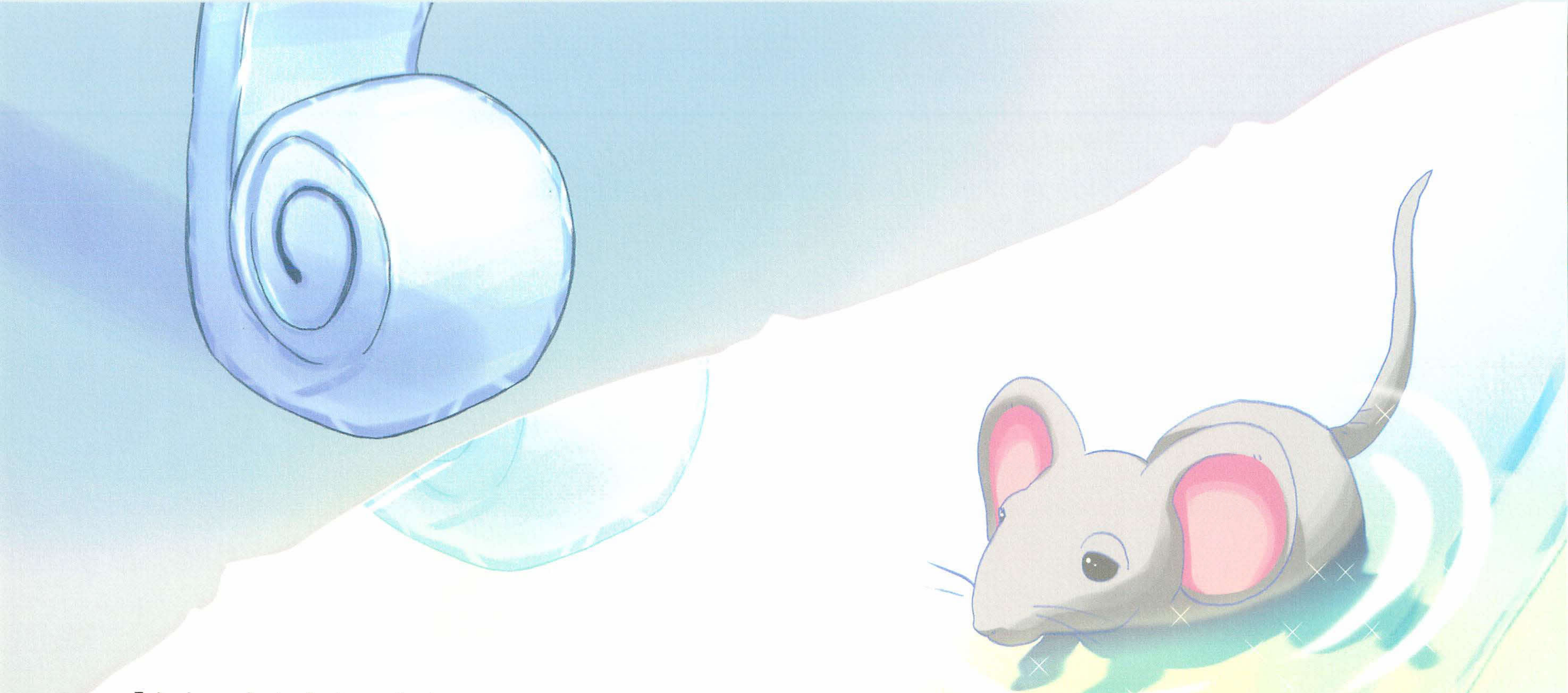
「どうして、いつもあんなにいそいでいるのかしら？

おかげで、わたしまであつくなっちゃったわ」

アリスはおうぎをひろって、パタパタあおぎました。すると、体がぐんぐん小さくなっていくのです。

このままでは、今にもきえてしまいそうです。アリスは、あわてておうぎをほうりだしました。





「ああ、あぶなかった！」

見まわすと、さっきの水たまりが、池のように見えます。

そのぶんだけ、アリスの体が小さくなったのです。

「まあ、これがぜんぶわたしのなみだ？」

そう言ったとたん、つるりとすべって、

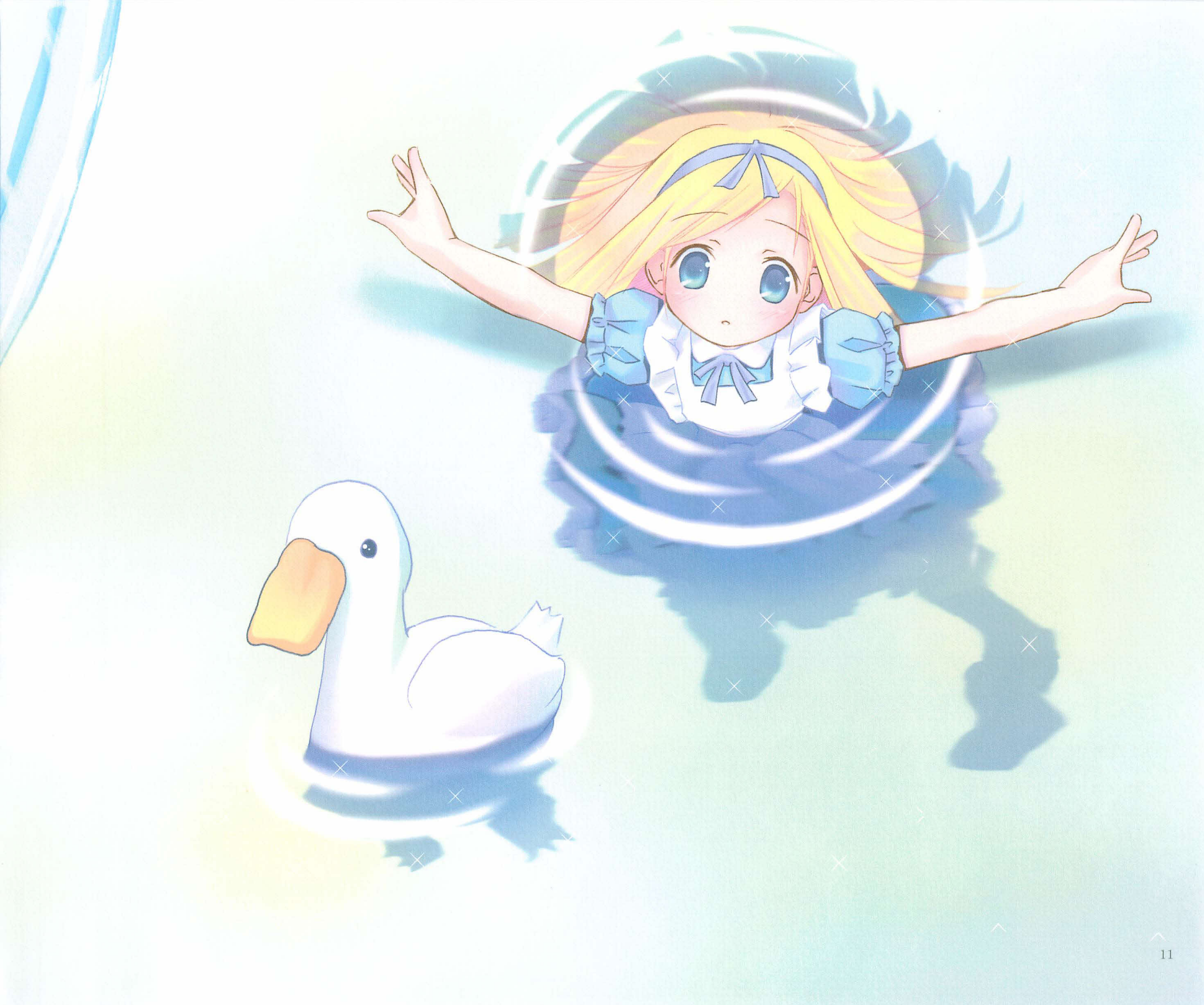
アリスは、なみだの池におちてしまいました。

池には、ネズミやインコやアヒルもいて、

いっしょうけんめい、きしにあがろうとしています。

アリスも、みんなといっしょに、きしによじのぼりました。









きしにあがると、そこには
みどりの森が広がっていました。

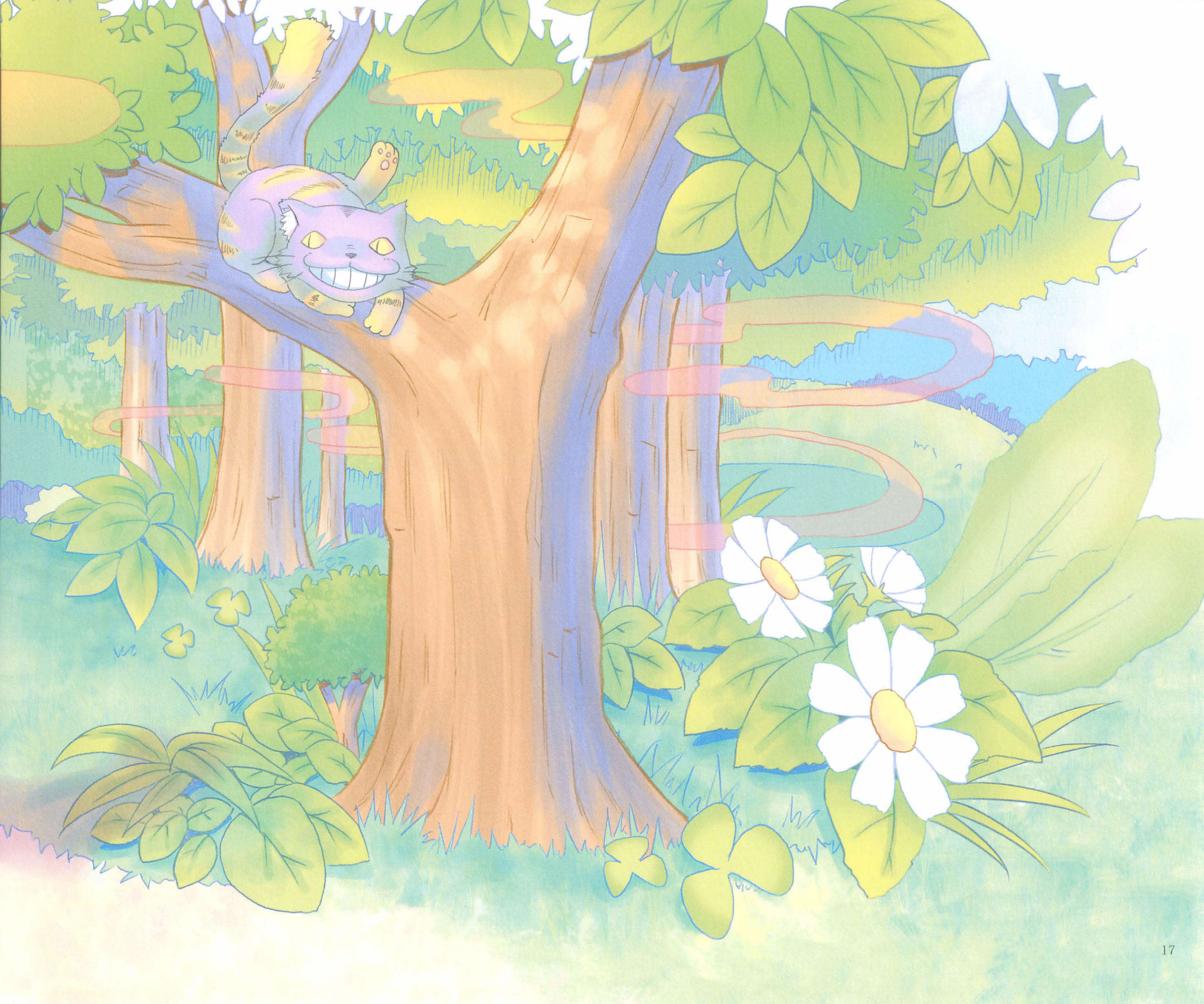
森の入り口には、アリスのせたけくらいもある
大きなキノコが生えていました。
キノコには、イモムシがのっています。
イモムシは、水たばこをふかしながら、
のろのろとねむそうに言いました。
「このキノコを両手でちぎって、食べてごらん。
体の大きさがじゆうにかえられるよ」
そう言うとイモムシは、キノコからとびおりて、
草むらの中にきえていきました。
アリスは、言われたとおりに
キノコを両手でちぎってみました。
まず右手のキノコをかじると、
みるみるせがちぢみました。
つぎに左手のキノコをかじると、
にょきにょき、せがのびました。
「よかった。これで、いつでもすきなときに、
すきな大きさになれるのね」
アリスは、両手のキノコをじゅんばんにかじって、
のびたりちぢんだりしながら、歩いていきました。





　アリスがさらに歩(ある)いていくと、
木(き)のえだに、大(おお)きなネコがいました。
　耳(みみ)の近(ちか)くまで口(くち)がさけるほど、
にんまりわらったチェシャネコです。
　アリスは、ていねいに
たずねてみました。
「すみませんが、わたし、
　どっちへ行(い)ったらいいのでしょう？」
　するとチェシャネコは、答(こた)えました。
「この先(さき)を、ずっと行(い)ってごらん。
　ぼうしやと三月(さんがつ)ウサギがいるよ」
　そう言(い)うと、しっぽの先(さき)から少(すこ)しずつ、
じわーっときえていきました。
　にんまりわらった口(くち)だけが、
しばらくあとまでのこっていました。






There
Here



チェシャネコにおしえられたとおりに歩いていくと、
細長いテーブルをおいて、ぼうしやと三月ウサギが、
お茶会をしていました。ふたりの間では、
ネムリネズミがぐっすりねむっています。

三月ウサギは、アリスに言いました。

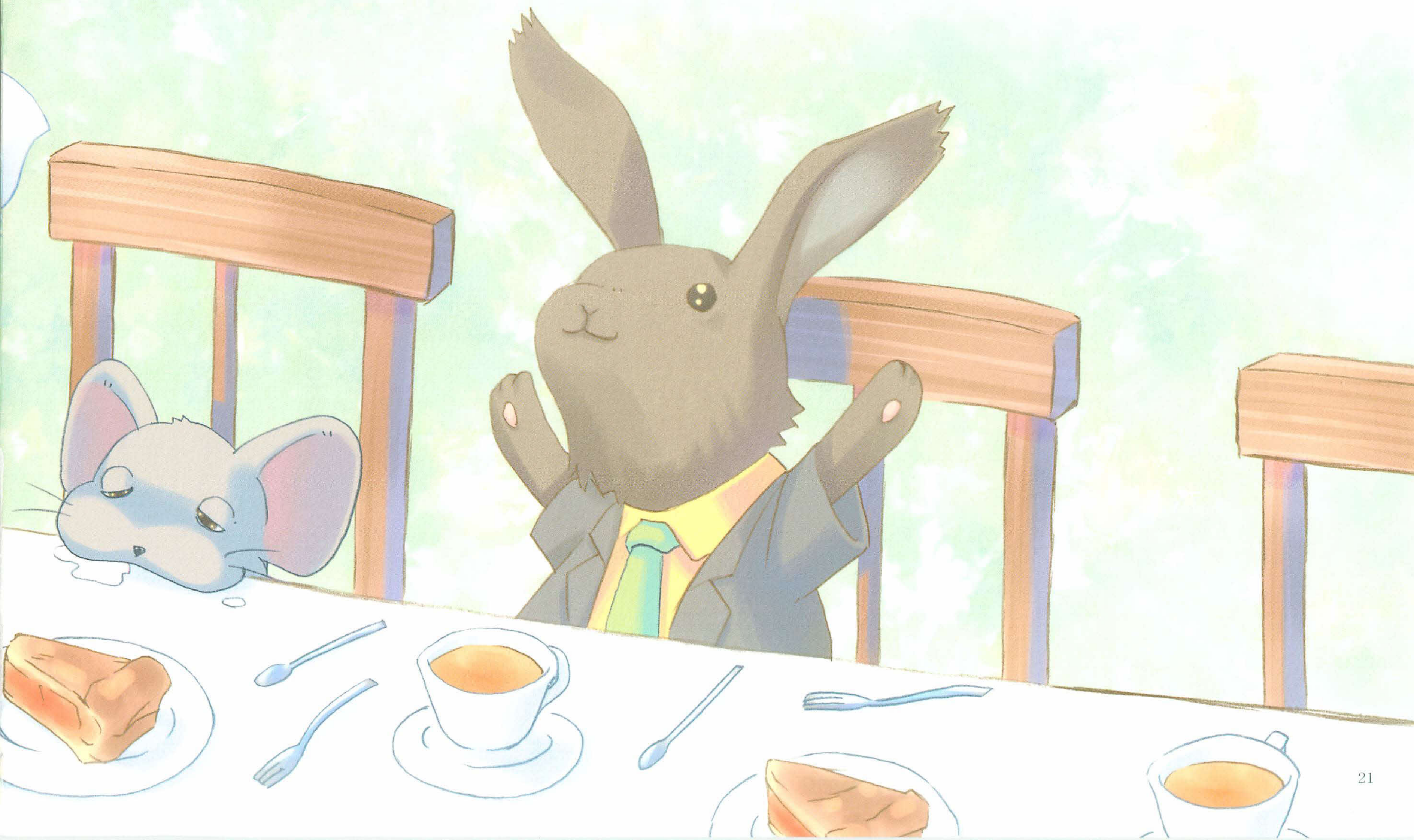
「もう、すわるところはないよ」

でも、いすもお茶のカップも、まだまだたくさんあります。

「へんなの！」

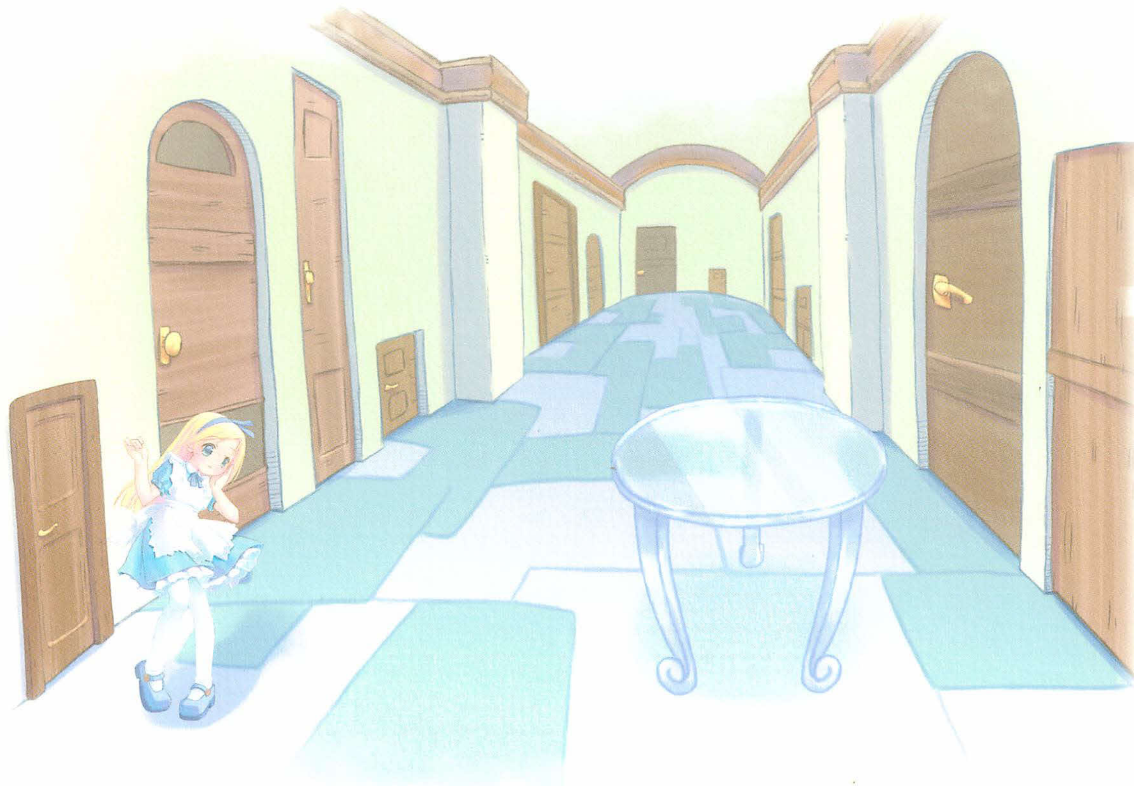


アリスがムッとしていると、こんどは、ぼうしやが言いました。
「じゃあ、なぞなぞでもやる？　でも、答えのないなぞなぞだけどね」
「そんなもの、できるわけないでしょ！　わたし、しつれいするわ」
アリスはあきれて立ちあがり、さっさと歩きだしました。





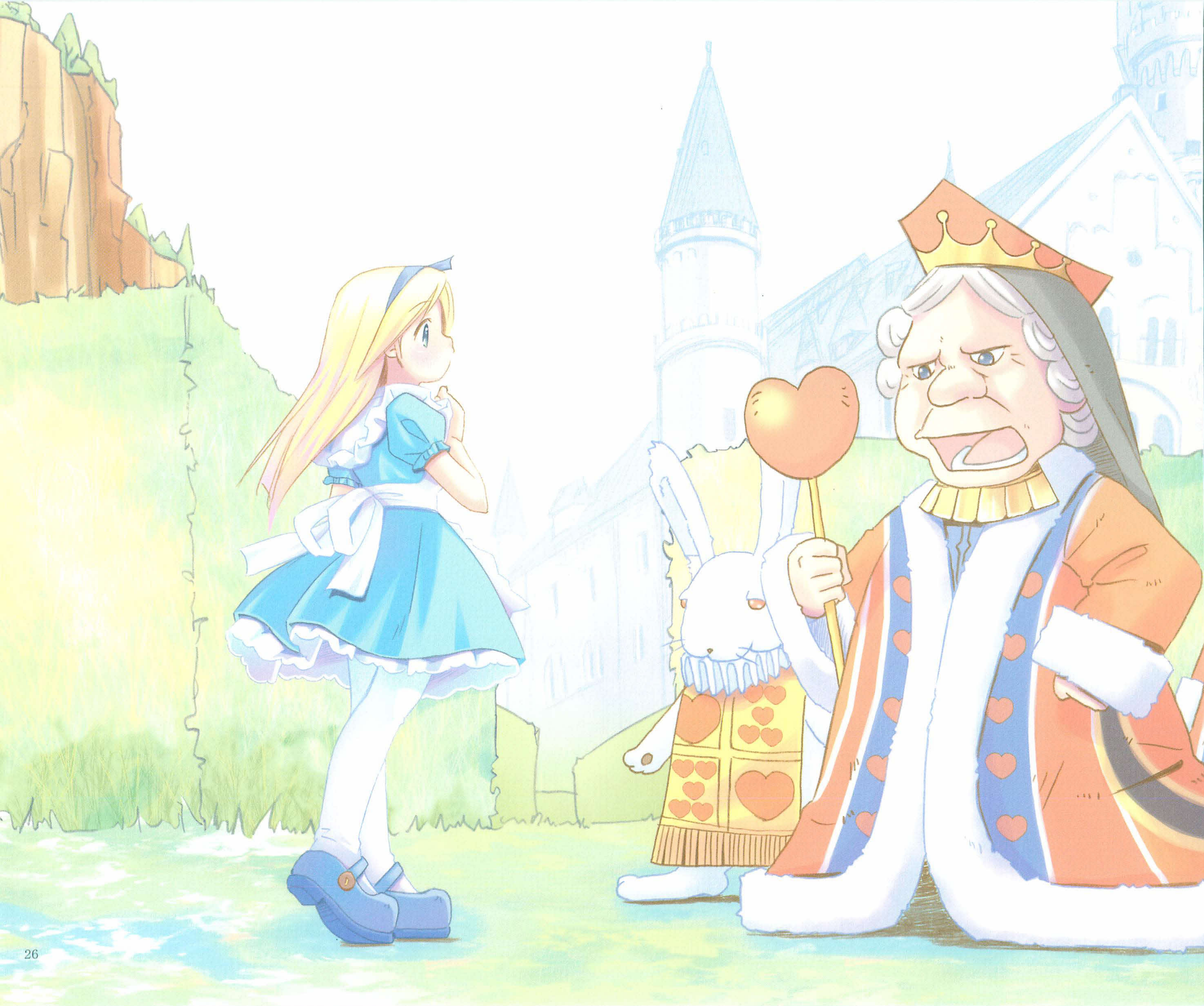
どんどん歩（ある）いていくと、森（もり）をぬけたところに、
一本（いっぽん）の木（き）がありました。みきには、とびらがついています。
「こうなったら、なんでもやってみるべきね」
とびらをあけると、なんとそこはさいしょの大（おお）ひろま。
アリスは、テーブルの上（うえ）のカギをとったあと、
右手（みぎて）のキノコを食（た）べて、小（ちい）さくなりました。
「これでやっと、あのすてきなにわに行（い）くことができるわ」



小さなドアをくぐりぬけると、
花だんやふん水のある、
きれいなにわが広がっていました。
白いバラが、たくさん、さきみだれています。
そこでは、三人のトランプのにわしが、
白いバラをせっせと赤くそめていました。
「赤いバラをうえるはずだったのに、
まちがえて白いバラをうえちまったのさ」
「あ、たいへんだ！　女王さまのぎょうれつが、
もうそこまできてる」









　トランプの女王さまは、たくさんの
家来をつれて、やってきました。
　あの白ウサギもいます。
　女王さまは、にわしたちを見ると、
目をつりあげておこりました。
「赤いバラと白いバラを
　まちがえるなんて、ゆるせないわ。
　こいつらの首を切っておしまい！」
　女王さまは、ぷりぷりおこりながら
むこうへ行ってしまいました。





まもなく、むこうのほうから、
女王さまのどなり声が聞こえてきました。
「さあ、今からクロケーのしあいをはじめる。
みんな、いちについて！」
そのクロケーのしあいは、
それはそれはきみょうなものでした。
ボールは、くるりと丸まったハリネズミ。
それをうつバットは、フラミンゴの首。
ボールをうとうとすると、フラミンゴは
アリスを見あげてこまったような顔をします。
ハリネズミのボールはもそもそにげだすし、
アーチになった兵士たちも、
しょっちゅうどこかへ行ってしまいます。
これでは、しあいになりません。
それを見た女王さまは、
おこってさけんでいるばかり。
「ええい、みんな首を切っておしまい！」





　アリスは、このさわぎに、うんざりしてきました。
にげだすところはないかと、あたりを見まわしていると、
なにかがぼんやりとうかんでいます。
　はじめにぼんやりと口の形が出てきて、
つぎに目、そしてさいごに耳があらわれてきました。
　チェシャネコは、にんまりわらって言いました。
「やあ、どうだね」
　アリスは、やっとまともな話しあいてがあらわれて、
うれしくなりました。
「もう、みんなけんかばかりで、いやになっちゃったの」
　そこへ、女王さまがとおりかかりました。
女王さまはチェシャネコを見ると、またおこりだしました。
「あやしいやつめ、首を切れ！」
　たちまちまわりは、ひとだかりがしてきました。
でも、チェシャネコは、そのさわぎの間に、
出てきたときと同じように、じわじわときえてしまいました。

　そのとき、ラッパの音がなりひびきました。
「さいばんのはじまり！」

　アリスがかけつけると、
王さまと女王さまは、せきについていました。
「パイをぬすんだつみで、ジャックをうったえる」
「さっそくろうやに入れるのじゃ」
　せっかちな王さまが言いました。
　あわてて白ウサギが言います。
「ちょっとおまちを。さいばんであるからには、
　しょうにんにたずねなければなりません」

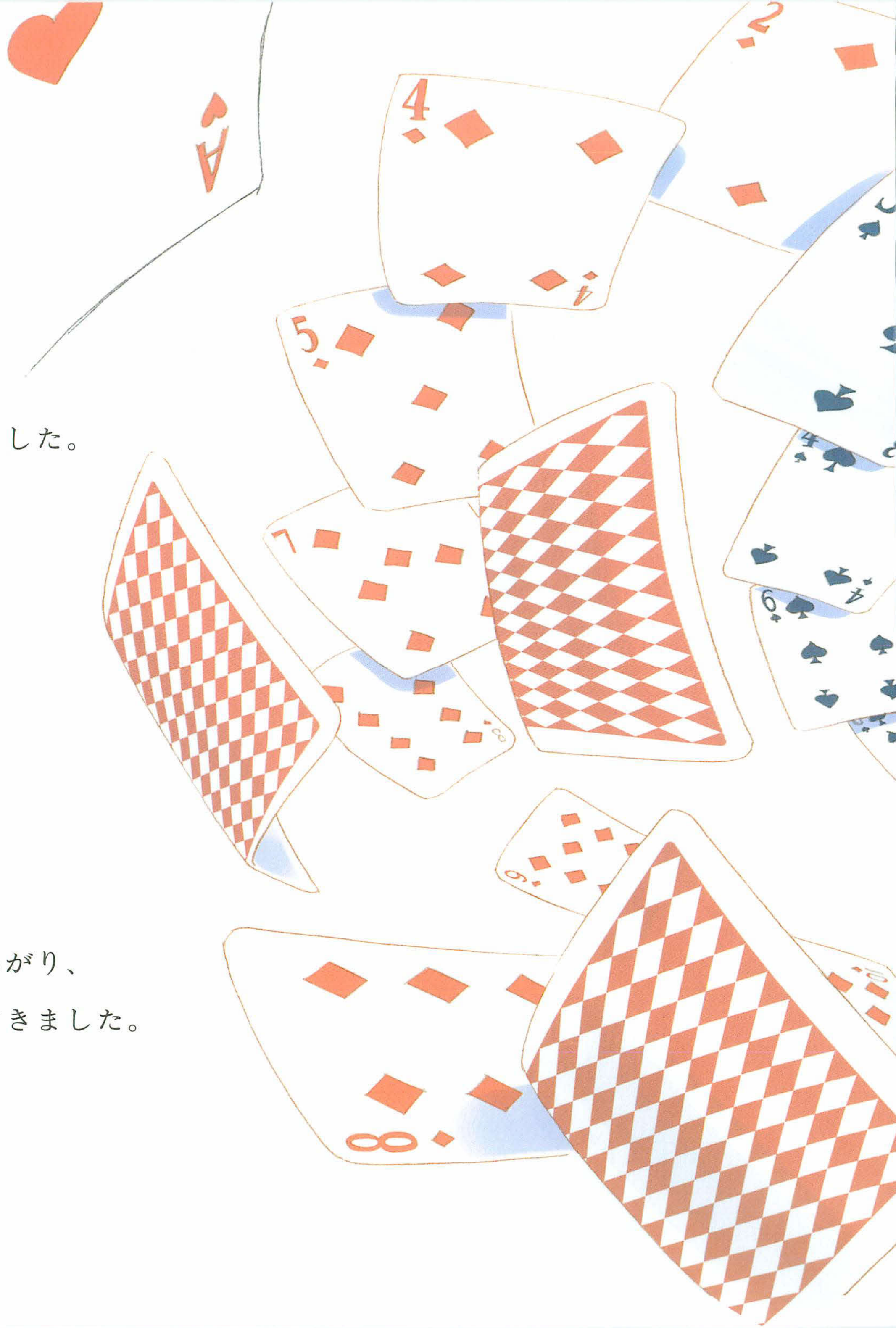
　さっきからアリスは、体がむずむずしていました。
いつのまにか、体が大きくなってきているのです。
　そのとき、白ウサギが声をはりあげました。
「しょうにんは、アリス！」
「はい！」
　いそいで立ちあがったアリスは、
まわりの人たちをはねとばしてしまいました。
大きくなっていたことをわすれていたのです。
「あらあら、ごめんなさい！」





「はんにんはジャックにきまりじゃな」
せっかちな王さまがきめつけました。
「そうよ、すぐに首を切りなさい！」
女王さまがどなります。
アリスは、がまんできずに、大声で言いました。
「それだけできめるなんて、おかしいわ！」
「おだまり！　この子の首も切るのよ！
みんな、みんな、首を切っておしまい！」
女王さまは、わめきつづけています。
アリスは、むちゅうでさけびました。
「なによ、あんたたちなんて、
ただのトランプじゃない！」

そのとたん、トランプたちが空中にまいあがり、
アリスめがけて、いっせいにおそいかかってきました。
「きゃあー！」

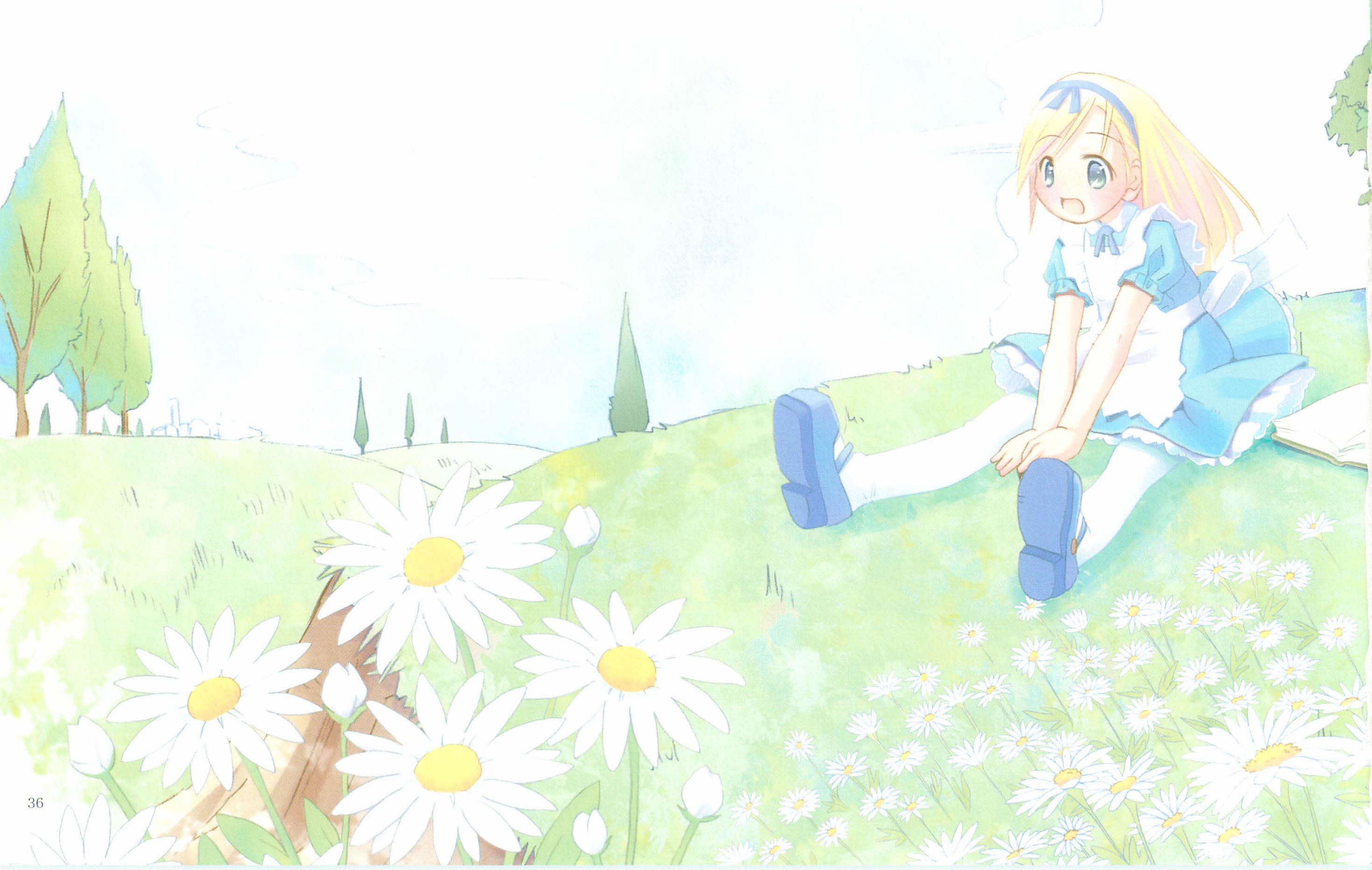




アリスは、はっと目をさましました。

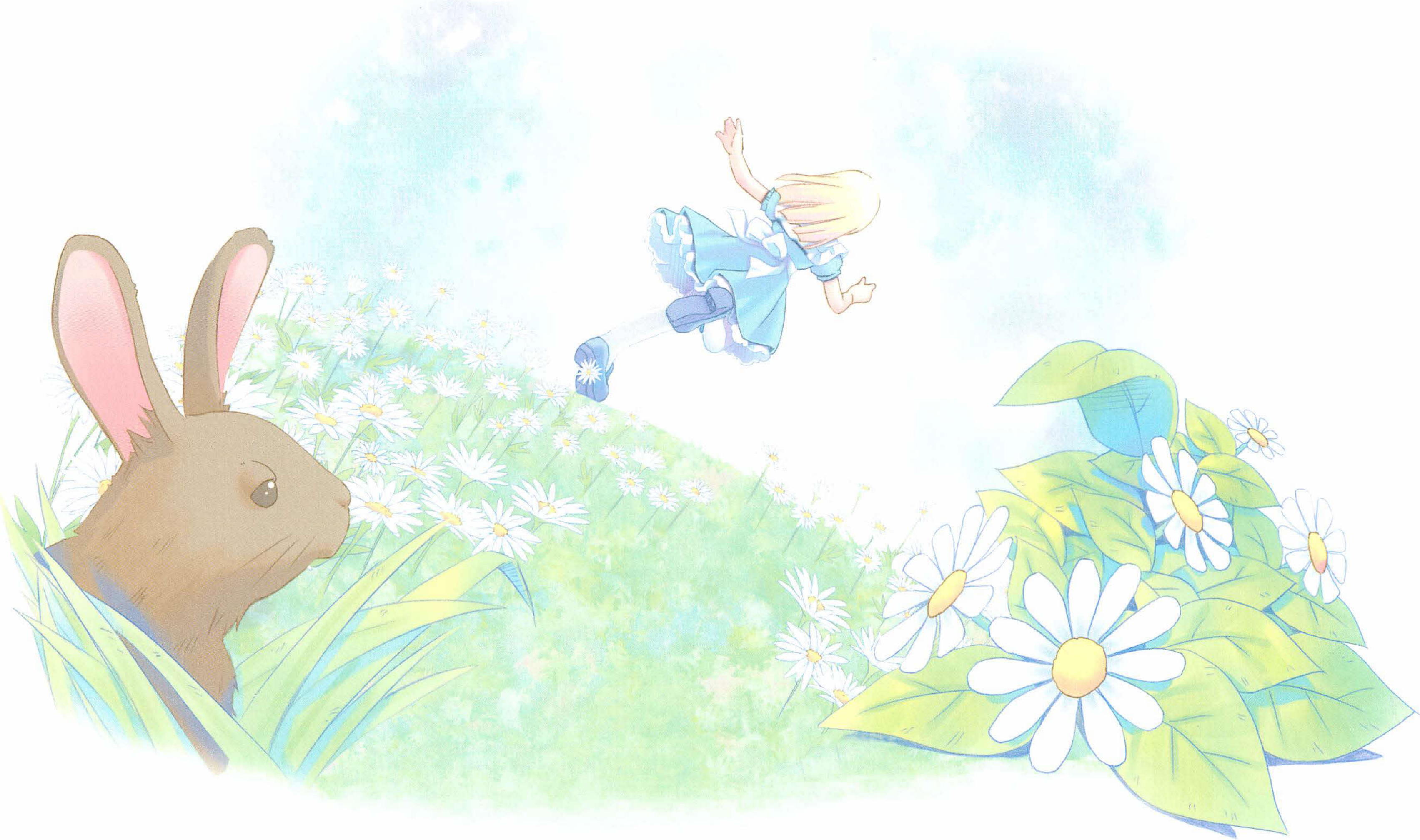
すると、なんとそこはひなぎくの花がさきみだれた土手の上なのです。

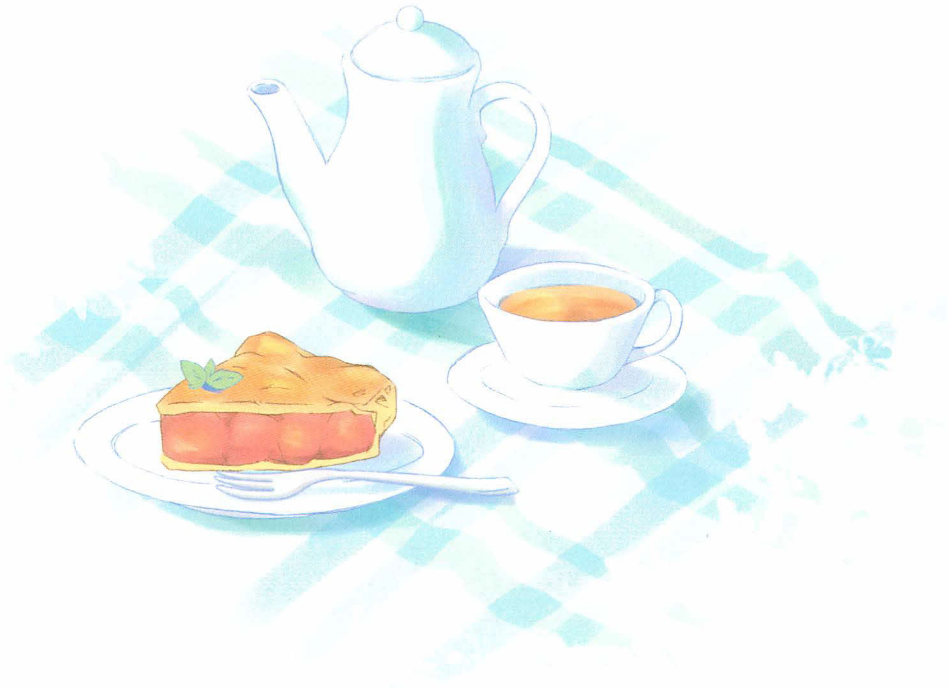
「なあんだ、ゆめだったのね」





　アリスは、いま見たばかりのふしぎなゆめを、
おねえさんに話してあげようと思いました。
「さあ、お茶の時間におくれるわ」
　アリスは家にむかって、かけだしていきました。

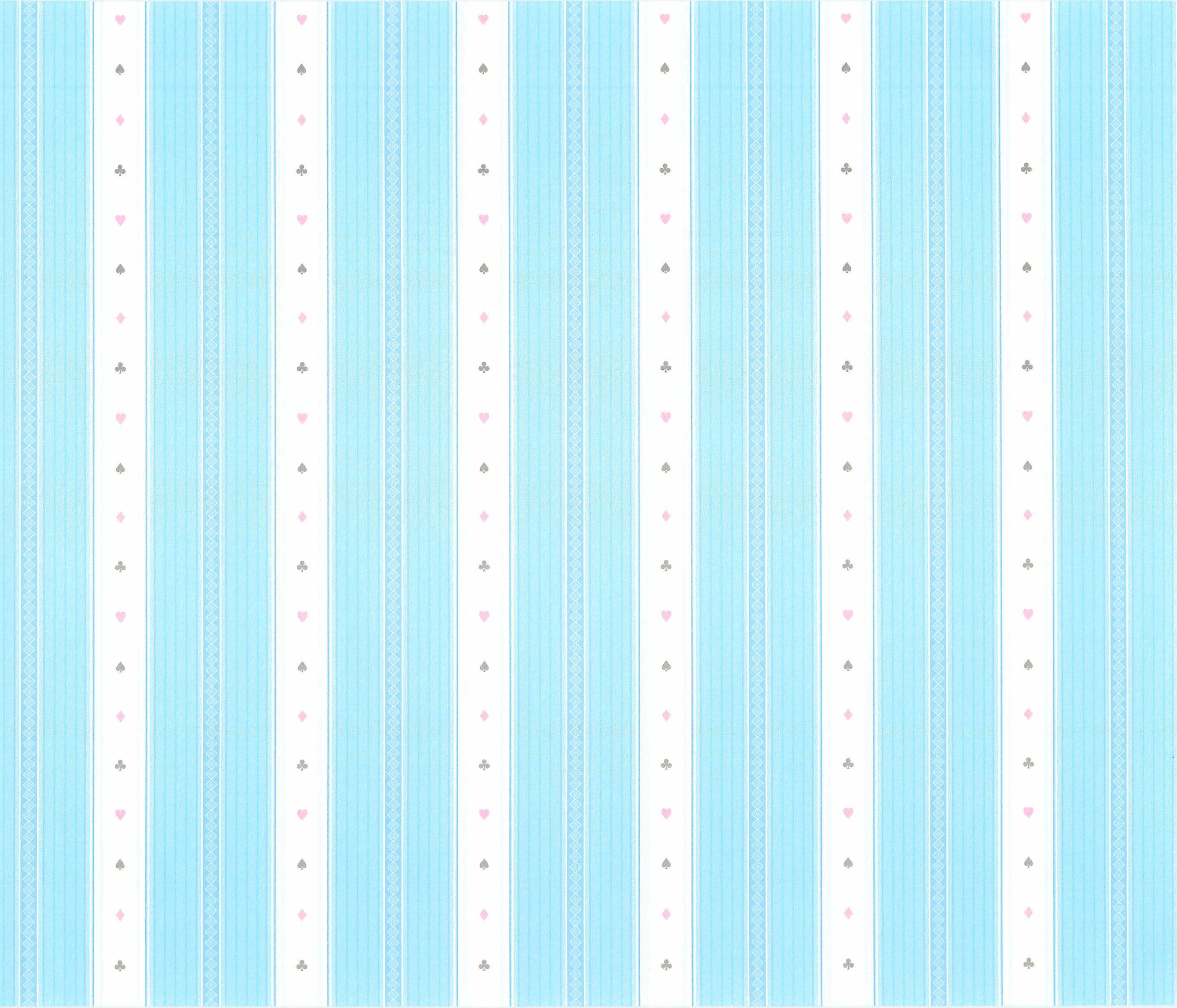




POP WORLD　ふしぎの国のアリス　ぽっぷ 絵　はやのみちよ 文

2006年4月　第1刷
発行者／坂井宏先　編集／横山拓也
企画・デザイン／マスターピース
編集協力／みっとめるへん社
発行所／株式会社ポプラ社　〒160−8565　東京都新宿区大京町22−1　電話（編集）03−3357−2216（営業）03−3357−2212（お客様相談室）0120−666−553
FAX　（ご注文）03−3359−2359　振替／00140−3−149271　http://www.poplar.co.jp（ホームページ）　http://www.poplarland.com（ポプランド）
印刷／瞬報社写真印刷株式会社　製本／株式会社ハッコー製本　ISBN4−591−09206−2　N.D.C.913／39P／22cm×27cm／Printed in Japan

＊乱丁本・落丁本は送料小社負担でお取りかえいたします。ご面倒でも小社お客様相談室宛にご連絡ください。受付時間は月〜金曜日、9:00〜18:00（ただし祝祭日は除く）
＊読者の皆様からのお便りをお待ちしております。いただいたお便りは編集部から著者にお渡しいたします。





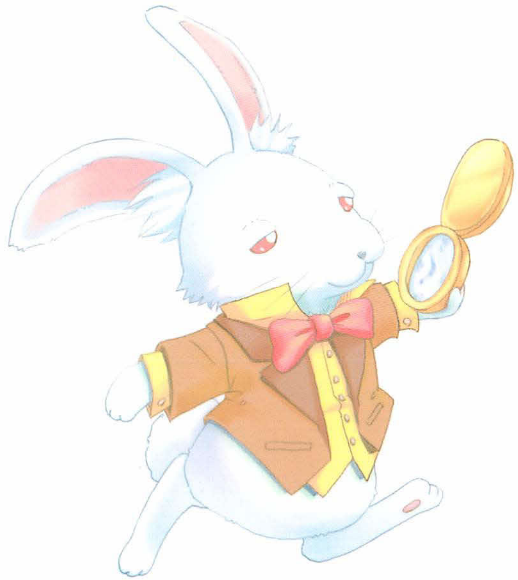
Alice's Adventures
in Wonderland

ISBN4-591-09206-2 C8793 ¥1300E

定価：本体1,300円 税別

9784591092064

1928793013009



ポプラ社

アリスといっしょに、ふしぎの国へ

ページをめくると、そこはふしぎの国。
キュートでかわいい、新しいアリスの絵本。



ポプラ社



へんてこな白ウサギのあとをおいかけて、
ふしぎの国にまよいこんだアリス。
そこで見つけた、小さなびんのくすりをのむと、
アリスの体はきゅーんと小さくなってしまったのです。

